

ホームページへの掲載	
済	3月9日掲載

岐阜県立山県高等学校

学校長 伊藤 崇
学校住所 岐阜県山県市中洞44-1 電話 0581-52-1551

1 会議名 岐阜県立山県高等学校運営協議会 (第3回)

2 開催日時 令和2年2月13日(木) 10:00~11:20

3 開催場所 岐阜県立山県高等学校 校長室

4 参加者 委員 亀山 雅之 1期目
藤木 節子 1期目
前田 恵津子 3期目
廣田 直子 P T A会長

学校側 伊藤 崇 校長
伏見 圭太 教頭
磯部 典之 事務長
山田 智徳 教務主任
中谷 長史 生徒指導主事
山本 通広 進路指導主事
岩井 憲司 特別活動部長

5 会議の概要 学校長挨拶
自己評価について
3年生進路報告
部活動活動報告
学校関係者評価
意見交換

(1) 学校長挨拶

本日の会議は、学校関係者評価委員会も兼ねておりますので、学校運営等に関して委員の皆様には忌憚のないご意見、ご要望、評価をいただきたい。また、今回の会議録はホームページに掲載させていただきますのでよろしくお願い致します。

今年は工事が多く大変であったが、外壁、廊下、トイレの温水洗浄便座化などの工事が終了した。屋上の校名も塗り替え、マリンプールになった。

来年度より工業類型の企業実習(デュアルシステム)を開始するために、製造業の企業約50社に依頼し、22社よりご協力いただけることになった。生徒の居住地を考慮し、19社で22名が実習をさせていただく。実習服を購入し、3月4日に開講式を行う予定である。この生徒たちの1年間の頑張りがよい形で次に繋がるとよい。

(2) 成果と課題について各分掌の自己評価報告

●学習指導について 教務部
各教科の習熟度別授業や少人数授業が学習の理解につながっていると評価されている。この結果よ

り、現在実施している授業形態が受け入れられ、基礎学力の定着には有効であると考える。

学習実態調査から、日々の家庭学習に取り組む生徒が少ない状況が明らかになり、家庭での学習習慣を身につけさせる指導が必要である。

授業規律を徹底し、生徒が自ら学び、集中して授業に取り組める環境を確立したい。

●生徒指導について 生徒指導部

今年度は、生徒が自らを見つめ、自身の意思で行動を決定していくための自己教育力を高める指導として、カウンセリングマインドを踏まえた生徒との関わりを教員全体に呼びかけた。その結果、少しずつではあったが、教師の言葉に耳を傾け、自らの行いを省みる姿が見られた。今後もカウンセリングマインドを踏まえた生徒との人間関係作りは、本校の重要課題の一つである。

来年度は、授業規律や身だしなみ等の指導を、生徒との関係作りを踏まえて実施したい。

●進路指導について 進路指導部

進路指導については、保護者及び生徒から概ね肯定的な評価を得ており、特に進路情報の提供については高評価が約85%、進路希望に沿った適切なアドバイスについても80%を超える高評価を得ている。

来年度も地域創生キャリアプランナー制度を活用して、企業の求める人材に対する個に応じた進路指導をすすめていきたい。

●家庭・地域との連携 教頭

学校からの連絡文書等の伝達、ホームページの閲覧者数などの評価が下がっている。伝達方法の工夫や魅力ある情報の発信をする必要がある。

地域連携の取り組みとして、生徒会のボランティア活動や文化系部活動の各種イベント参加などの地道な活動を評価したい。

特別活動の活性化や5つの種類の取り組みなど、新しい情報を発信することで生徒及び保護者へアピールし、地域活動に参加することで家庭・地域との連携を深めていきたい。

(3) 学校運営協議会委員からの意見（学校関係者評価）

○意見1

生徒指導において大変な努力をされていることが、地域に住んでいてよく分かった。学校周辺のごみ拾いや、校門での立哨指導等をする職員の一生懸命な姿に安心する。現在の生徒の様子からヒントを得て、山県高校でどういった生徒を育てたいかというビジョンや上手くいった指導方法など、全職員で共通理解をもつことが大切である。

人口の減少が著しい現状に、地域はもっと危機感をもつべきである。将来、この地域を担うのは山県高校の生徒やこの地域で働く若者である。山県市と連携し、山県高校の生徒が積極的に地域に残って、市のために働ける制度を作っていきたい。

○意見2

市唯一の高校であるが、地元中学校からの進学者数を増やすことや、地元の協力を得ることが難しい状況であるが、素朴で人と関わりを持つことに喜びを感じる生徒たちのために何かできるとよい。

働き方改革の一環で夜8時以降の留守番メッセージが導入されたが、職員に余裕はできたのか。ICT活用の重要性は分かるが、職員の準備・業務の多様化による負担は大丈夫なのか。少数の職員で情報共有しやすいのは、よい環境である。

生徒がもっと挨拶できるとよい。県内初となる普通科での工業系企業実習が上手くいくとよい。実習への不安もあると思うが、生徒には責任をもって取り組んでほしい。生徒の頑張りを教職員のエネルギーに変え、学校に地元を支えてほしい。生徒が将来何をしたいかを早めに決め、長所を引き出せるとよい。トイレを見ると家庭クラブが頑張っていて活動しているのがよく分かり、うれしく感じる。

○意見3

山県高校を活性化させる活動に4年間関わり、市役所とともに地元の意見も取り入れてやってきたが、本日学校の状況をよく知ることができた。

他にない山県高校ならではの特徴は、生徒が生き生きと学び、社会で貢献できる力をつけ、成長できる学校であり、更なる発展を願う。学校任せにするのではなく、カウンセリングや心のケアなどを、学校・家庭・地域で協力できる体制づくりを望む。これからの頑張りが大切なので、職員が連携して、生徒に対するカウンセリングマインドを踏まえた声かけを大切にしてほしい。

○意見4

子どもの様子は家庭と学校では違う。一人一人への声かけはありがたく、声かけしてもらうことで教員とも距離感が縮まり、自己肯定感が育つ。またそれが保護者にも伝わると、保護者と職員との良好な関係が築ける。

可能な範囲で、以前のようにIT部などの生徒の制作したものを発信してはどうか。生徒が学校で学んでいることをよく知る機会となる。一斉メールで春先に帰宅確認訓練があったが、非常変災で早く下校させる場合のメール発信を迅速にお願いしたい。

6 会議のまとめ 校長

本日は、多くのご意見をいただき、ありがとうございました。できたこと、できなかったことを職員間で共通理解し、小さい学校ならではの目の行き届いた指導をしたいと思います。学校の教育だけでは限界もありますので、今後も皆さんのお力をお借りしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。